



● NPO法人ホップ
障害者地域生活支援センター

代表理事 竹 田 保

先日、研修会に出席するために鳥取を訪れた。数年前にも患者会の会議で訪れた事があるが、今回は研修会とは別に県庁に視察をお願いした。「鳥取県には、スタバはないが日本一のすなばがある」だけじゃれから生まれた「すなば珈琲」にも行きたかったが、それ以上に、日本財団、鳥取県庁、鳥取県タクシー協会がコラボしたユニバーサルタクシーについては視察研修を行いたかった。

1997年から毎年3月3日に積雪期において、外出などの移動困難な状況を社会に改善を求めるために「雪道デモ行進」を行っていた。雪が降ると点字ブロックは消え、白一色となり全ての景色が同化する。白状で濃霧の山道をトレッキングするような危険と隣り合わせだ。降り積もる雪道の外出は、砂漠を車椅子で移動しているようなものだ。車椅子は基本的に鉄とアルミニウムで出来ているため長時間寒気外気に触れていると車椅子も冷たくなる。冬期間のため外出は、氷の座布団を敷いているようなものだ。

就職先を見つけて札幌で暮らし始めた頃、通勤に四苦八苦しした。当時、地下鉄のエレベーターは9時から17時までに利用時間が制限され、扉は鎖と鍵で嚴重に施錠され、簡単に利用できない威圧感を漂わせていた。バスには、リフトもスロープもなく、車高が高いために乗降口の段差を車椅子で乗り越えるのは不可能だった。車椅子用タクシーを利用するためには、一週間前の事前予約が必要で、大半は管理職が運転していたこともあり9時から17時までの利用となり、一般のタクシーを利用することも難しかった。

移動手段の確保によって普通の暮らしをしたい、という思いから、移送サービスを始め、雪道デモ行進を企画した。タクシーのバリアフリー化によ

って自由な外出環境が実現することを長年にわたり思い描いてきた。

来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、交通機関のバリアフリー化（移動円滑化）やホテルのバリアフリー化（特定特定建築物の移動円滑化）が進められている。ユニバーサルタクシーも普及が急速に広がっているが、ユニバーサルとして最も普及が進んでいる残念ながら電動車椅子や大型車椅子利用者には課題が多く、いつでも利用できるとはいかない。

首都圏での会議参加にあたって開催地の交通事情を把握できなかったので、羽田空港から開催地までJRを乗り継ぎ、駅から会場まではタクシーを利用しようと思った。ユニバーサルタクシーを所有している会社に電話して手配をお願いしたが、電動車椅子で利用したいと伝えると複数の事業者から都合がつかないとのことで利用を断念した。

鳥取県と日本財団は共同プロジェクトのひとつにユニバーサルタクシーの普及により誰もが安心して利用できる地域交通モデルに取り組んでいる。事前の情報では、空港からの県内移動、市内の移動もスムーズに出来そうだと聞いていた。

札幌から羽田経由で鳥取空港に到着しタクシー乗り場をさがした。乗り場にはユニバーサルタクシー会社の一覧が掲示されていた。掲載されている会社に連絡すると3社目で配車予約ができた。その後も滞在中に何回か利用したが、概ね10分待ち位で到着し、乗降もスムーズに行うことができ、料金も小型タクシーと同額と支障なく快適に利用することができた。

全国的にユニバーサルタクシーが飛躍的に普及しているが、車椅子で利用しにくい車輦が増えているのも事実だ。鳥取県での取組みを参考にふるさと納税や使途目的を限定して寄付を募り財源を確保する必要もある。国、自治体はユニバーサルタクシーの普及に補助金を支給しているが、外国人旅行者の中にも車椅子利用者が含まれていることも考慮して、新たにバリアを生み出さないようにして欲しいと思う。